

「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	鳥取大学	拠点番号	E 1 4
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	乾燥地科学プログラム (Program for Arid Land Science)		
研究分野及びキーワード	<研究分野:環境学>(砂漠化対処)(環境修復技術)(植物生産)(自然エネルギー利用)(社会医学)		
専攻等名	乾燥地研究センター、連合農学研究科生物資源科学専攻、同生物環境科学専攻、工学研究科情報生産工学専攻、同社会開発工学専攻、医学系研究科社会医学系専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 稲永 忍 教授 他 14名		

拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成16年1月現在）を抜粋

<本拠点がカバーする学問分野について>

本拠点は、環境計測、環境修復技術、植物生産などの農学分野を主体とする、これまでの砂漠化対処に資する学問分野に、自然エネルギー利用や社会医学等の分野を加えて、これらの成果をまず、「快適な生活環境の形成」、「食料の安定供給」、「乾燥地保健・医療の提供」の3テーマの下に統合する。さらに、3テーマを統合して、「新たな乾燥地科学」、すなわち「健康的な人間生活の営みを保障する乾燥地科学」の構築を目指す。

<本拠点の特色及びその目的等>

本拠点の目的は、本学がこれまでに蓄積した農学分野の知見や技術を基盤とし、さらに乾燥地現地に海外研究教育基地を設けて、世界に類を見ない「新たな乾燥地科学」を構築するとともに、これを担う人材を育成することにある。本拠点の形成は、本学の理念「知と実践の融合」の下に掲げられた目標「地域から世界への大きな夢の発信」の達成や、本学の一層の個性化にとって重要である。

<COEを目指すユニーク性>

乾燥地科学に関する優れた研究・教育機関としては、国際乾燥地域農業研究センター、イスラエル農業研究機構、中国科学院水土保持研究所等があり、そこでは農学を主体とした研究や教育を行っている。これに対し、本拠点は、単に農学に留まらず、自然エネルギー利用や社会医学等の分野を加えた「新たな乾燥地科学」の構築、及びこれを担う人材の育成を目指している。

<本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

本拠点の形成は、世界の乾燥地の砂漠化対処に、より役立つ科学の発展、当該分野の人材育成、及び国連砂漠化対処条約に係る我が国の貢献義務（財政支援、科学技術支援、人材育成）の履行にとって重要である。これまでの砂漠化対処に資する乾燥地科学では、特に、社会医学面における取り組みが遅れている。この分野を包含する本拠点の形成は、世界の乾燥地科学に新たな発展をもたらす。

<本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果>

現行の乾燥地科学が、一段と人間を中心に据えたものとなり、砂漠化対処に、より資せる科学となる。また、将来の乾燥地科学の発展方向を明確に示すことができる。加えて、乾燥地の砂漠化対処に関わる国際機関や企業、NGO等に採用される専門家が育成される。さらに、本学が、我が国の国連砂漠化対処条約に対する貢献義務上、重要な研究教育機関と位置づけられる。

<背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等>

当該分野における国内外の研究は、そのほとんどが自然科学分野のもので、しかも個別断片的である。また、人文社会科学分野については研究の蓄積が少なく、乾燥地を対象とする社会医学についてはほとんど研究が行われていない。本事業の推進により、各分野の統合化が進み、人間を中心に据えた乾燥地科学の構築が進展する。本拠点の形成は、国連砂漠化対処条約批准国である、我が国の科学技術面及び人材育成面での一層の貢献に繋がる。

機 関 名	鳥取大学	拠点番号	E 1 4
拠点のプログラム名称	乾燥地科学プログラム		

21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と評価される。

(コメント)

以前から行われていた砂漠化対処に関する主として農学的な研究に、自然エネルギー利用や社会医学的な分野を加え、その総合化においても、また、研究教育拠点の形成計画においても、現在まで高い実績を収めてきており、今後の成果も十分期待できると評価される。

さらに、大学全体の支援体制も良好と判断する。

敢えて言えば、目標が大きく高いので、世界的なネットワークを具体化することが重要であり、また、「新たな乾燥地科学」の構想を一層具体化し、5年間で構想がどこまで進捗するかの予測を明示したかたちで進められたい。